

新型インフルエンザワクチンの生産技術開発に関する提携について

財団法人 化学及血清療法研究所

財団法人 化学及血清療法研究所（熊本県熊本市、理事長：船津昭信、以下：化血研）は、グラクソ・スミスクライン株式会社（本社：東京都渋谷区、代表：マーク・デュノワイエ 以下：GSK ジャパン）及びグラクソ・スミスクライン・バイオリジカルズ（ベルギー 以下：GSK バイオ）と、このほど日本国内における新型インフルエンザ対策として、パンデミックワクチンの新しい生産技術開発を目的とした基本的な提携方針に合意しましたのでお知らせ致します。

本提携では、化血研と GSK バイオが所有、またはライセンス供与を受けている細胞培養の技術・ノウハウと、GSK バイオのアジュバント（免疫増強剤）技術を統合し、新型インフルエンザが発生してから全国民分の予防ワクチンを供給するまでの時間を短縮すると共に、より予防効果の高いワクチンを開発することを目指します。

新型インフルエンザがいつ発生するかは誰にも予測できません。しかも、発生後は迅速にワクチンを生産・供給する必要が生じます。現在、インフルエンザワクチンの生産には発育鶏卵が使われていますが、この方法では新型インフルエンザのウイルスが同定されてから、全国民分のワクチンを生産するまでに最短で18ヶ月を要すると言われています。細胞培養技術は、新型インフルエンザのウイルス同定後のワクチン生産時間短縮に寄与し、命に関わるワクチンの供給を迅速化する技術と期待されています。

化血研は国家主導の新型インフルエンザ対策の一環として、2004年より新型インフルエンザワクチンについて臨床試験を実施し、有効性・安全性を確認した後に2008年4月22日に製造販売承認申請を行っております。またこれまでにプレパンデミックワクチン原液を製造し、国家備蓄に貢献しています。

一方、GSK バイオは海外においてインフルエンザワクチンの生産、供給について豊富な経験と実績を持ち、プレパンデミックワクチンでも、2008年5月にEU加盟国の27カ国での販売について欧州当局より承認を取得しております。また、GSK ジャパンはアジュバントを添加した H5N1 型（プレパンデミック）インフルエンザワクチンを日本国内で開発中です。

【財団法人 かがくおよびけっせいりょうほうけんきゅうじょ 化学及血清療法研究所（化血研）：<http://www.kaketsuken.or.jp/>】

化血研は、人体用ワクチン・血漿分画製剤・動物用ワクチンの研究・開発・製造・供給を手掛ける生物学的製剤メーカーとして、これまで医療保健衛生の向上に寄与して参りました。本提携の契約は今後正式に行われますが、今回の提携を機に、新型インフルエンザ対策という国家規模の危機管理施策に対して更に貢献できるよう努めて参ります。

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

財団法人 化学及血清療法研究所 企画部企画課
担当：濱治 和博（TEL:096-344-1385、FAX：096-344-2307）